

科目名		授業形態	担当教員名	
生理光学Ⅰ		講義	荒木 渚	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
視力は眼の状態を把握する上で大切な指標であり、視力に影響する因子の1つに屈折異常があります。この授業では、視力検査や屈折検査に関する基礎知識を身につけるために「視力とその検査の理論」、「屈折異常」を理解することを目的とします。				
授業の到達目標				
①視力の概念を説明できる。 ②屈折異常の定義とその矯正方法を説明できる。 ③レンズ度数をパワークロスで示すことができる。 ④視力や屈折に関連する演習問題を解くことができる。				
授業計画				
回	内容			
1	視力の評価 授業開始時期：幾何光学第7回終了後			
2	Landolt環の計算①			
3	Landolt環の計算②			
4	正視・近視			
5	遠視			
6	確認テスト①			
7	屈折度と遠点			
8	屈折矯正（近視、遠視）			
9	レンズ装用時の屈折度と遠点			
10	確認テスト②			
11	乱視			
12	屈折矯正（乱視）			
13	軸転換			
14	等価球面度数			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	習熟度の確認のため随時小テストを実施するが、評価には含まない。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
視能学 第3版		小林義治 他編	文光堂	
目でみる 視力・屈折検査の進めかた 第2版増補		所敬・山下牧子 著	金原出版	
視能学エキスパート 視能検査学 第2版		和田直子 他編	医学書院	
眼科検査ガイド 第3版		根木昭 監修	文光堂	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
理解を深めよう 視力検査 屈折検査		所敬 監修	金原出版	
屈折異常とその矯正 改訂第7版		所敬 著	金原出版	
自由記載				
備考				